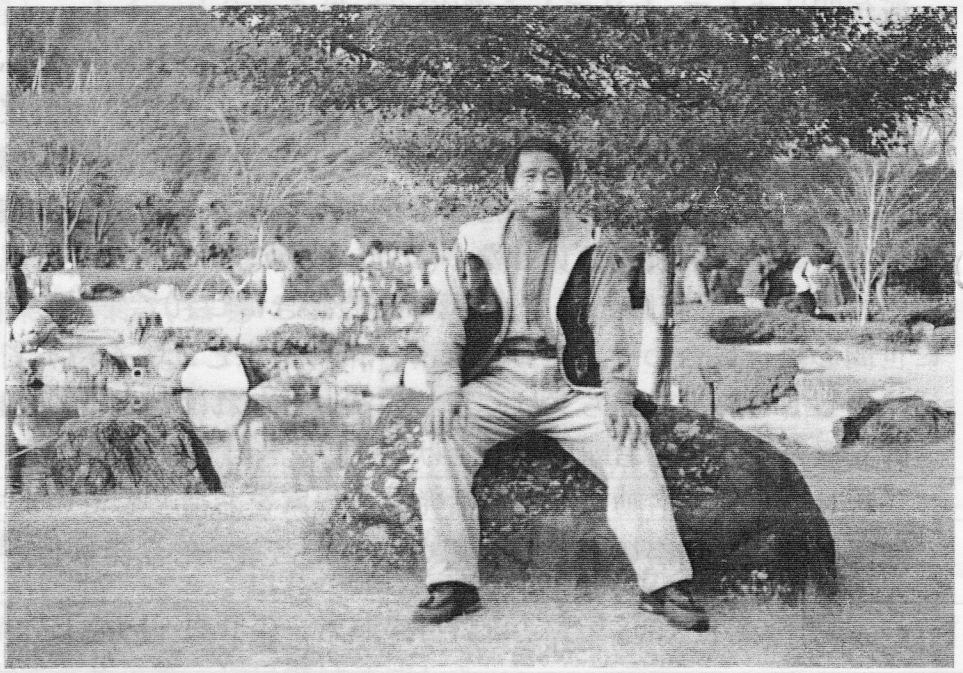
新会員紹介

飯塚 勝さん（平成１２年１１月２０日定年）

〒370-0406 尾島町前小屋 1825-1　電話 0276-52-2604

2000 年 11 月 20 日付にて、定年退職いたしました。12 月より群馬菱の実会に入会させていただく事になりましたので、宜しくお願い申し上げます。昭和 38 年入社、群馬製作所生産技術課 公務係、設備技術課、菱電不動産（約 1 年出向）25 年間、三菱電機北関東支社（2000 年 4 月より関越支社）総務課に 12 年間合わせて 37 年間勤務して参りました。その間、諸先輩方の皆様に公私にわたり格別のご指導ご支援を賜わり厚くお礼申し上げます。

今後は健康に留意し会社生活の経験を生かし地域活動、趣味、家族孝行をしながら有意義な人生を送れるよう努力して参りたいと思いますので、菱の実の諸先輩の皆様方に今後共よろしくご指導お願い申し上げます。



会員投稿

『語り継ぐ記憶』（その１）

太田市宝町 水戸 友康

いささか旧聞に属するが、昨年暮れの日本経済新聞に 20 回に亙り「語り継ぐ記憶」＜スポーツの 20 世紀＞という連載記事が載ったのを記憶されている方もいるだろう。

各回の見出しを並べただけでも、胸躍り、血が騒ぎ、懐かしさに涙ぐむ人が多かったに違いない。

即ち、①待望のヒーロ「長嶋」－全力プレーにくぎ付け ②人見絹枝、女性の時代 先駆－24 年の生涯、全力疾走で ③1943 年「最期」の早慶戦－覚悟の徴兵、野球が支え ④大下・川上の「青赤バット」－空前の野球ブーム到来 ⑤円谷・アベベ「マラソン人生」－燃え尽きた求道者と哲人

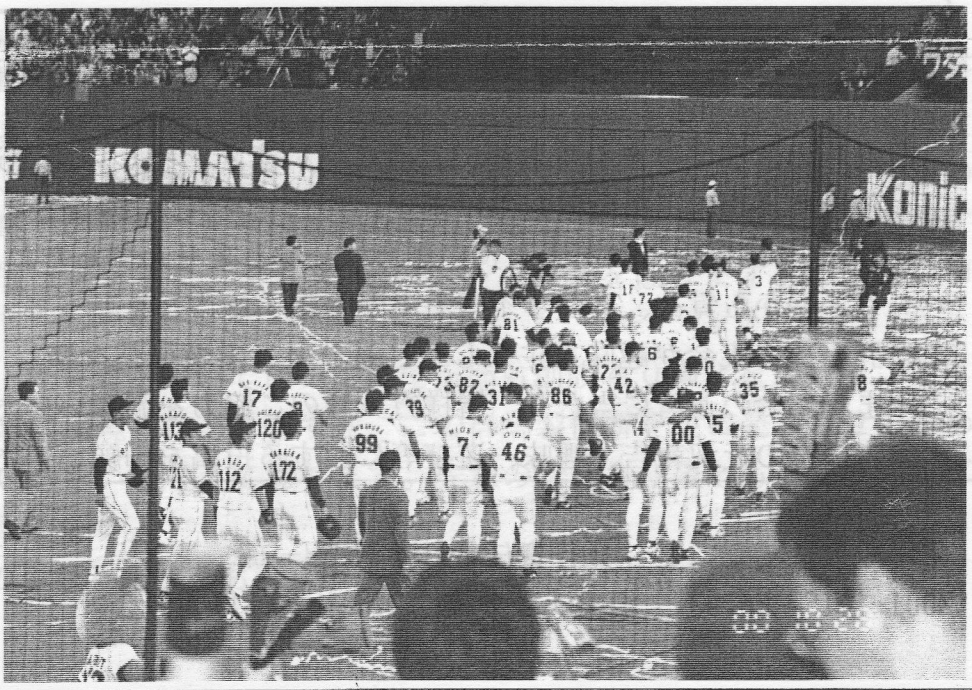
⑥裸一貫の時代 ボクサー魂－19 歳原田、世界の頂点に ⑦太田幸司 アイドルの誕生－延長 18 回雑念なき 262 球 ⑧怪物神話 ハイセイコー地方演出、ダービーの夢 ⑨高見山になったジェシー －相撲道を説く「元祖」⑩札幌の空 3 人の鳥人－「護送船団」巻き返し結実 ⑪「世界の王」国民熱狂－夢の 756 号に一喜一憂 ⑫「空白の 1 日」球界支配－巨人「脱退」切り札に強行

⑬尾崎の革命 青木の開拓－競い合い、己の頂点極め ⑭「東洋の魔女」企業と蜜月－人気・実力、男子も躍進 ⑮輝いた冒険者 植村・堀江－「単純」な挑戦心で偉業 ⑯女性の夢海外で開花－岡本・伊達、気負わず挑戦 ⑰F1 疾駆 ホンダとセナ ハイテク縦横無尽に ⑱NOMO メジャーの扉 －夢舞台、実力でつかむ ⑲ プロレス 遠い理想郷－「最強」叫び離合集散 ⑳「悲願」支えたドーハの思い－日本サッカー、実りある 10 年 －である。

どの項目を見ても「ああ、あれか、あのことか、あれは憶えている、あれは忘れられない、、、」と誰でも思うことだろうし、そこにスポーツの奥深さ、素晴らしさ、頂点を極める者の試練と挫折の生きざまを見ることができ、懐かしい思い出と共に永遠に心に残る自らの青春を重ね合わせる人も多いだろう。スポーツの思い出は、タイムカプセルにとじこめたように古びない。アスリートの輝きはある意味で一瞬であるかも知れないが、その一瞬の輝きを共有することがスポーツの本質かも知れない。
このシリーズの第一回の冒頭にこう記されている。
『 20 世紀は「スポーツの世紀」でもあった。外来の文化だったスポーツは日本にも根を下ろし、やがて全身全霊を傾ける選手達の姿に、人々は涙し、勇気づけられた。それらは新世紀へと語り継ぐべき、貴重な共有財産といえる。そんな中から二十の人物と事件を選んだ。』

ところで、私にはこの「語り継ぐ 20 世紀」の主役ともいうべき長嶋と王に関し特別の思い出がある。第１回目はついこの間の長嶋監督、第２回目は遠い昔の王選手に分けて、自慢たらしいと非難されるのを覚悟の上で敢えて記してみたい。

先ず、昨年「ミレニアムー世紀のＯＮ対決」といわれて話題を集めた巨人対ダイエーの日本シリーズで、長嶋監督の胴上げシーンを目の前で見ることが出来た幸運である。
素人の予想もたまには当たるらしく、第６戦で巨人の優勝決定と狙いを定めて入手した 2000 年 10 月 28 日（土）の東京ドームの１塁ベースの斜め後ろで清原や仁志の顔が見え、交替時には松井や高橋と握手ができそうな願ってもない好位置で娘と一緒に観戦出来る幸運に恵まれた。試合はご承知の通り巨人の楽勝に終わったが、矢張り目の前で見る胴上げの瞬間は何ともいえぬ興奮と感動がある。試合が決まりかけた後半はスタンドはもうお祭り騒ぎで試合などどうでもよくなってしまっていた。待望の長嶋監督の胴上げシーンを写真に撮ろうとしたら前の椅子によそから入り込んだ奴が立ち上がっていて撮れない、仕方なく自分の椅子に立とうと思ったらここにも既によその奴が立って騒いでいるという目茶苦茶の興奮状態で、結局無理して撮った胴上げの右半分には前の奴の頭が写っているという次第。場内１周の時はペナントが意外に大きいのに驚き、全選手の喜び溢れる顔、顔、顔が光り輝いて見え、喜びが伝わってくるようでとても素晴らしかった。そして MVP に輝いた松井選手のオーロラビジョンに写るさわやかな顔とコメントがとても素晴らしく画面を写真に撮ったことと、オペラグラスで覗いた３塁ベンチの王監督の悔しいというよりは何ともいえぬ淋しそうな顔がとても印象に残り「世紀の決戦」（監督が試合をするのでもないのにこの表現は嫌いだが）の勝者と敗者の明暗分ける姿をみて、興奮して騒いでいる娘とは逆に 20 世紀最後の記念すべきシーンを目の当たりにできた幸運に感謝しながらも複雑な気持ちでドームを後にした。

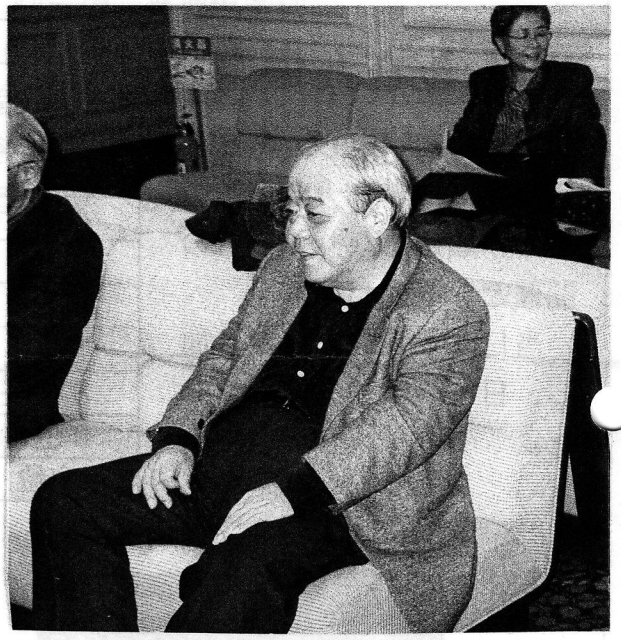


（続く）

新会員紹介　**寺田 久さん**（平成１２年３月３１日定年）

〒326-0808　足利市本城３丁目 2091-2　電話 0284-22-2317

もう１３年も、月に一度受診している医者が昨秋「ぽっくり死ぬ人は、死ぬまで元気なんです」と私に言う。で、「それがいいですよ、それには体重をちょっと減らしましょう」と続ける。今までこんなことを言わなかったのに、どうも血液検査で現れる数値が医者が考えていたより悪いらしい。毎日が日曜日になり、夏の暑さにかまけて昼食にもビールを飲むようになったのが、モロに出てきたらしい。その医者に初めて診察を受けたのが（株）菱冷社（現三菱電機冷熱設備）出向時代。入社馬電・通電・ＭＯＳ（現ＭＳＹ）出向・再び馬電、そして菱冷社出向後は三回目の馬電・本社・メルコグループ厚生年金基金出向（後転籍）と転々……平成１２年３月末退職。暮れには７９kgと３kgの減量達成。が、医者は「何年生きれるか」という問には答えてくれない。



パソコンサークル活動報告<No.６>

開催日	場所	出席者	学習内容
１／１５（月）	組合事務所	１４人	EXCEL（表計算）の概要、及び基礎知識について

★第９回目、今日からＥＸＣＥＬ入門。

会員投稿　**『語り継ぐ記憶』（その２）**　太田市宝町　水戸 友康

もう一つの記憶に残る思い出は四半世紀近くも前になるが、日本中が一喜一憂した「夢の 756 号」が誕生した 1977 年 9 月 3 日（土）の後楽園球場の巨人対ヤクルト戦、午後７時 10 分６秒の正に歴史的瞬間に球場に居て、然もその瞬間を「キャッチャーの真後ろから」写真に撮れたという幸運である。

打った王選手が目の前で、打たれたジャンボ鈴木投手はホームベースと１塁の中間の上空を見上げ、１塁の大杉選手は真上を見上げ、バックスクリーンの時計は正に午後 7 時 10 分を指している、こんな写真がバカチョンカメラに写っていようとは奇跡以外の何ものでもない、と今思い出しても鳥肌が立つような興奮を憶える。

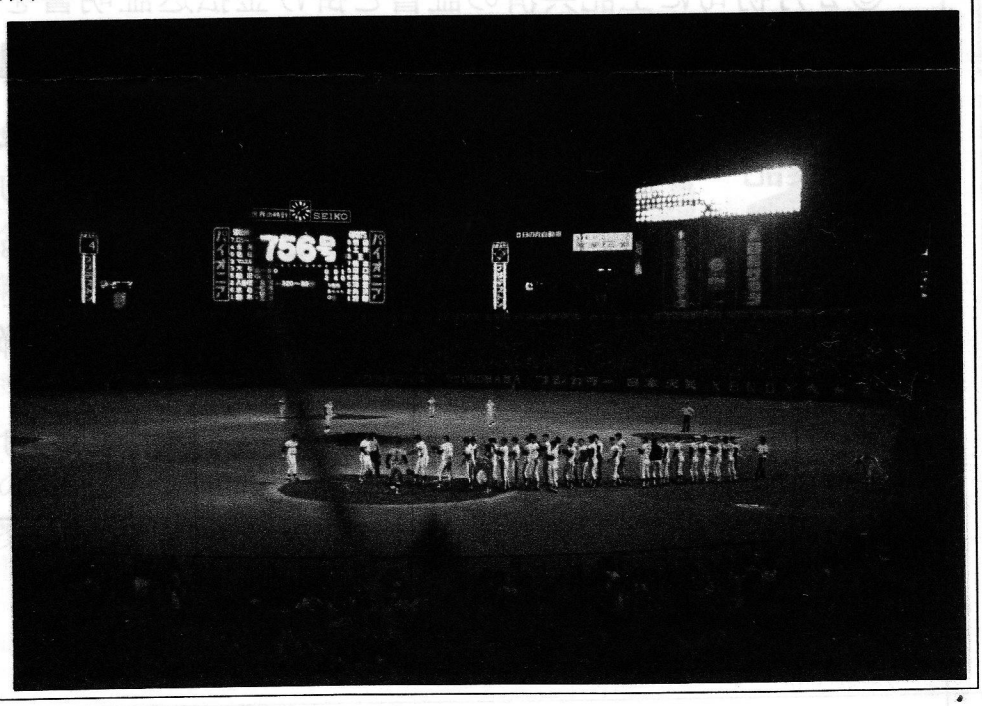
8 月 9 日に星野仙一から 746 号を打ってからカウントダウンが始まり、日本中が興奮状態になって行った。テレビ視聴率は 40%を超え、浩宮さまが毎日のように「まだ出ませんか」と侍従に確かめた逸話も残っている。

そんな中、確か 755 号を打ってから９月３日まで３試合があり、当然それまでには世界記録は達成していると誰でも思ったもので、だから「気の抜けたビール」を覚悟の上で切符を入手し、小学生の長男を連れて観戦できたという次第。然し、なかなかあと１本が出ずにとうとう歴史に残る９月３日がやってきた。試合の始まる前から球場は異様な雰囲気で、１回裏は走者を置いて鈴木投手が敬遠すると「逃げるな！」「卑怯者！」のヤジで球場がゴーッと鳴って膨らんだようになった。

そして３回裏１死無走者の場面で何となく「出るぞ！」と予感がしてカメラを構えていた 2−3 からの運命の６球目、正に １ ・ ２ ・ ３ のどんぴしゃりでシャッターを押し、あとは無我夢中で撮りまくった。派手なセリモニーが続き全く試合にならなくなってしまい、両軍選手を気の毒に思ったほどである。なおマスコミは報道しなかったが、756 号と同時に 1,3 塁側のスタンドで割れる予定の大きなくす玉が何故かご両親のいる 1 塁側がなかなか割れずに大爆笑だった。息子と記念の王選手のサイン入りボールやグッズを買い込んで、興奮冷めやらぬまま缶ビール片手に帰宅したことを鮮明に憶えている。

後日談だが、打たれた鈴木投手はそれまで王と７回対戦したが、外に大きく落ちる決め球のシュートでタイミングを外し１本も本塁打を打たれていなかったが、さすがにショックは隠し切れず友人と自棄酒を飲みにゆき、スナックで酔いつぶれてしまい朝帰りとなったが、そこの女性と翌年結婚し、披露宴で仲間から「鈴木の本当の仲人は王さんです」とスピーチされ会場は爆笑だったという。また、彼は翌年頑張って 13 勝 3 敗の好成績を上げてヤクルトの初優勝に貢献したが、82 年に近鉄にトレードされ、86 年に引退、17 年後にはその奥さんとも別れ、現在は郷里の茨城県で野球やサッカーのユニフォームに文字を圧着するわずか 20 人の町工場で働いており、時々工場の仲間とひっそり草野球を楽しんでいるという。ここにも輝かしい勝者と残酷な敗者というには余りにも淋しい両者の人生模様がある。

現役時代の長嶋と王選手、この二人は単に風化することのない偉大な記録の数々を残したというだけではなく、巨大な期待を引き受け、人々と喜びを共有することをいとわず、超人的な克己心で模範的役割としてのスポーツマンを演じきったところにその偉大さがあり、人々に永遠の感動を残してくれたことで 21 世紀へ語り継がれる正に「20 世紀のヒーロー」ではないだろうか。



さて、22 世紀に語り継がれるヒーロー、名勝負はどのようなものになるのであろうか、そして「３度目の幸運」は果たして訪れるのであろうか？　（おわり）